CASBEE-建築(新築)2014年版

(仮称)福岡市総合体育館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル：　CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト：　CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**4.0**
Q1 室内環境			**0.40**		-	**4.2**
1 音環境		**5.0**	0.20	-	-	**5.0**
1.1 騒音		-	-	-	-	
1.2 遮音		**5.0**	1.00	-	-	
1 開口部遮音性能	開口部に遮音性能の高いサッシを採用する	5.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		-	-	3.0	-	
2 温熱環境		**3.9**	0.47	-	-	**3.9**
2.1 室温制御		**3.6**	0.50	-	-	
1 室温		2.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	窓ガラスU=26.7～5.0程度、外壁U=0.868程度、屋根U=0.507程度	4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	各室ごとに空調制御が可能	5.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	アリーナ競技面において気流速が0.15m/s程度	**5.0**	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	3.0	-	
3.3 照度		-	-	3.0	-	
3.4 照明制御		-	-	3.0	-	
4 空気質環境		**4.4**	0.33	-	-	**4.4**
4.1 発生源対策		**5.0**	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆やVOCの放散量が少ない建材を全面的に利用している	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		**3.0**	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能		-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理		**5.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視	CO2について中央監視が可能。竣工時に管理マニュアル整備	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	完全に区画された喫煙室があり、常に負圧に保たれている	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	**0.30**	-	-	**3.8**
1 機能性		**4.2**	0.40	-	-	**4.2**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		**5.0**	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	評価する取組のうち4の項目に該当している	5.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		**5.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	評価する取組のうち9の項目に該当している	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	評価する取組のうち10の項目に該当している	5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.7**	0.30	-	-	**3.7**
2.1 耐震・免震		**3.8**	0.50	-	-	
1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.1**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外や高湿系排気ダクトにガルバリウムダクトを採用している	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性		4.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	評価する取組のうち3の項目に該当している	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	評価する取組のうち3の項目に該当している	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	評価する取組のうち3の項目に該当している	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAとしている	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	評価する取組のうち4の項目に該当している	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		-	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.1未満である	5.0	1.00	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		2.8	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	評価ポイントが4である	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	評価ポイントが5である	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	評価ポイントが15である	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.73である	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	トップライト重力換気窓による通風、採光を行っている	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	BEI　非住宅 0.65　住宅（専有部） 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	BEI＝0.65である	5.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	
4 効率的運用		4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価		4.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	主要な用途別エネルギー量を把握し、消費特性の分析、妥当性確認	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	SPCによる運用でエネルギー消費量の把握や定期的なメンテナンス	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護		3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水	節水型の機器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.9	0.60	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	フライアッシュセメントを利用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ロックウール化粧版、ビニル床材、フリーアクセスフロアでエコマーク	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアや可動間仕切りを採用している	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を2種類採用している。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）	ODP=0かつGWP＝1の発泡剤を使用している	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2発生量が72%である	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	レインガーデンや透水性舗装で流出抑制を行っている	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	評価ポイントが4である	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	評価ポイントが4である	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-	
1 騒音		-	-	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.3	0.67	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.3	0.33	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	建物外壁はセメント板を主体とし、ガラス面は極力小さく、足元に限定	4.0	0.30	-	-	